

老年看護学実習

目的：老年期にある対象の発達段階や加齢による変化をふまえ、対象の健康状態および日常生活上の問題を把握し、対象のその人らしさと自立を尊重した看護を展開するための基礎的能力を修得する。
現代社会の保健・医療・福祉の現状を知り、看護の役割を理解する。

- 目標：1. 老年期にある対象の発達段階・発達課題をふまえ、多様な生活背景・生活習慣から身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
2. 対象の看護過程をとおして、老年期にある対象の健康障害と日常生活上の問題および残存機能を把握することができる。
3. 人生の完成期にある対象の人格を尊重し、健康状態に応じた看護過程を展開することができる。
4. 高齢者を取りまく社会と療養生活を継続するための社会資源を理解し、さまざまな場における看護と看護の役割を理解することができる。

目標	内容・方法	学習項目
1. 老年期にある対象の発達段階・発達課題をふまえ、多様な生活背景・生活習慣から身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 対象が生きてきた時代（学童期・青年期・壮年期の社会）を理解する。 老年期の発達段階・発達課題（ライフタスク）を理解する。 加齢に伴う身体機能の変化,心理面の変化を理解する。 	高齢者の生きてきた時代 老年期の発達段階・発達課題 加齢に伴う変化と生理的特徴
2. 対象の看護過程をとおして、健康障害と日常生活上の問題および残存機能を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集とアセスメント 対象の身体機能と健康問題および日常生活状態との関連,日常生活上の問題,障害の程度,要介護状態,対象の残存機能を把握する。 	高齢者のフィジカルアセスメント 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 高齢者によく見られる身体症状 高齢者に多い疾患と看護
3. 人生の完成期にある対象と家族の人格を尊重し、健康状態に応じた看護過程を展開することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程の展開 対象の身体機能と残存機能を考慮し、症状悪化・寝たきりの予防,QOLを高めることを目標とし、安全・安楽・自立をふまえた看護計画を立案する。 人生の完成期にある対象の人格を尊重した態度でのかかわり 	基本動作、転倒アセスメント、食事、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーションと看護ケア 高齢者のリハビリテーション
4. 高齢者を取りまく社会と療養生活を継続するための社会資源を理解し、様々な場における看護をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に対する保健医療・福祉サービスと対象への適応を考える。 高齢者を支えるさまざまな生活の場における看護を理解する。 他職種との連携と情報提供・情報共有を理解する。 	保健医療福祉制度 介護保険制度 高齢者の権利擁護 成年後見制度 チームアプローチと看護の役割

老年看護学実習オリエンテーション

老年看護学実習 I

目標：

1. 加齢に伴う生理的变化と特徴が理解できる。
2. 高齢者とのコミュニケーションの特徴を理解し、対象を尊重した態度を養う。
3. 高齢者が生活している場である施設の概要・特徴が理解できる。

実習概要

1. 実習施設：上福岡リハケアセンター， マザーアース高齢者総合ケアセンター， 上福岡総合病院
2. 実習単位・時間：1 単位 30 時間（1 時間＝45 分） 8：30～15：30
3. 実習時期：2 年次後期
4. 実習方法：高齢者に日常生活援助をとおして良好な関係を築く

1) 実習計画

実習前	オリエンテーション 学内学習	学内 4 時間
1 日目	学生自己紹介 目標及び行動計画発表 申し送り参加 施設オリエンテーション 施設利用者への日常生活援助見学 利用者とのコミュニケーション カンファレンス：実習 1 日目を終えて学びと 2 日目の目標	臨地 8 時間
2 日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともに施設利用者への日常生活援助見学及び実施 利用者とのコミュニケーション カンファレンス：高齢者に対する生活援助技術の学び	臨地 8 時間
3 日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともに施設利用者への日常生活援助見学及び実施 利用者とのコミュニケーション カンファレンス：老年看護学実習 I の学びと老年看護学実習 II に向けての課題	臨地 4 時間
	学院で実習内容の整理及び追加学習	学内 4 時間
4 日目	学習内容の共有 実習まとめ	学内 4 時間

2) 評価方法

老年看護学実習 I 評価表を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、老年看護学の学習状況、実習への取り組み・出席状況により総合的に評価を行い 60 点以上を合格とする。

老年看護学実習Ⅱ

目標：

1. 高齢者の健康上の問題を総合的にとらえ、健康状態に応じた援助ができる。
2. 様々な場における高齢者の生活と多様性を理解できる。
3. 継続看護の必要性和保健・医療・福祉チームの一員としての役割を理解し、多職種との連携・協働を考えることができる。

実習概要

1. 実習施設：上福岡リハケアセンター， マザーアース高齢者総合ケアセンター， 上福岡総合病院
2. 実習単位・時間：2単位 90時間 8：30～17：00
3. 実習時期：3年次 臨地実習配置表に準ずる
4. 実習方法：老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する

1) 実習計画

実習前	オリエンテーション 受け持ち対象者決定 学内学習	学内 4時間
1日目	学生自己紹介 目標及び行動計画発表 申し送り参加 施設オリエンテーション 受け持ち対象者の情報収集 受け持ち対象者へ自己紹介 カンファレンス：老年看護学実習Ⅱの目標	臨地 8時間
	データベース 受け持ち対象者の情報整理	学内 2時間
2日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 受け持ち対象者への日常生活援助見学 受け持ち対象者とのコミュニケーション カンファレンス：受け持ち対象者の身体機能	臨地 8時間
	受け持ち対象者の情報分析	学内 2時間
3日目	学内でアセスメント 日常生活援助技術計画記録	学内 10時間
4日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともに日常生活援助技術実施 カンファレンス：日常生活援助技術を実施しての振り返り	臨地 8時間
	情報追加 アセスメント 日常生活援助技術記録修正	学内 2時間
5日目	学内で問題点抽出 看護計画立案	学内 6時間
6日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともに日常生活援助技術実施	臨地 8時間
7日目	SOAP記録 情報追加 アセスメント 看護計画追加・修正 7日目カンファレンス：受け持ち対象者に適用できる社会資源を考える	学内 2時間
8日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともにまたは監督のもと日常生活援助技術実施 地域包括支援センター 居宅介護支援事業所見学	臨地 8時間
	SOAP記録 情報追加 アセスメント 看護計画追加・修正	学内 2時間
9日目	目標及び行動計画発表 申し送り参加 指導者・教員とともにまたは監督のもと日常生活援助技術実施 カンファレンス：受け持ち対象者からの学び 老年看護学実習Ⅱの目標の到達度と今後の課題	臨地 7時間
	SOAP記録 情報追加 アセスメント 看護計画追加・修正 実習記録整理	学内 3時間

2) 評価方法

老年看護学実習Ⅱ評価表を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、老年看護学の学習状況、実習への取り組み・出席状況により総合的に評価を行い60点以上を合格とする。

臨地実習受講のための前提条件

1. 単位取得領域・科目

老年看護学実習Ⅰ	基礎科目 専門基礎科目 専門科目 老年看護方法Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ	専門科目 老年看護方法Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ

2. 円滑な臨地実習のために復習することが望まれる学習項目

1) 老年期の発達課題

2) 転倒のアセスメントと看護, 廃用症候群のアセスメントと看護

3) 食生活のアセスメント, 食事援助方法

4) 排泄リズムの把握と生活の調整, 排尿障害・排便障害のアセスメントとケア

5) 生活リズムのアセスメントと生活リズムを整える看護

6) 高齢者のコミュニケーションの原則, コミュニケーション能力のアセスメント

高齢者におこりやすいコミュニケーション障害とアセスメント

7) 高齢者におこりやすい症候のアセスメントと看護

発熱, 痛み, 掻痒, 脱水, 嘔吐, 浮腫, 倦怠感, 褥瘡

8) 高齢者に多い疾患と看護

脳卒中, 心不全, 糖尿病, 慢性閉塞性肺疾患, パーキンソン病, 肺炎, 骨粗鬆症, 骨折, うつ, せん妄, 認知症, 前立腺肥大症, 疥癬, 白内障, ノロウイルス感染症

9) 高齢者を支える社会のしくみ

参考図書

医学書院：老年看護学 老年看護病態・疾患論 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ

メディカ出版：リハビリテーション看護 他

老年看護学実習 I 評価表

学生氏名 _____

実習場所		実習期間		
評価内容	評価基準	評価項目	自己評価	学校評価
1. 加齢に伴う生理的変化と特徴が理解できる。20	・加齢に伴う身体機能の変化,心理面の変化を理解する。	老年期の発達段階・発達課題を説明できる。 加齢に伴う変化と生理的特徴を説明できる。		
2. 高齢者とのコミュニケーションの特徴を理解し、対象を尊重した態度を養う。30	・対象が生きてきた時代(学童期・青年期・壮年期の社会)を理解する。 ・高齢者とのコミュニケーションの特徴を理解している。	高齢者の生きてきた時代を理解している。 高齢者のコミュニケーションの特徴を説明できる。 高齢者のコミュニケーションの特徴に配慮したコミュニケーションをとっている。 対象を尊重した態度で接することができる。		
3. 高齢者が生活している場である施設の概要・特徴が理解できる。15	・高齢者を支えるさまざまな生活の場における看護を理解する。	高齢者を支える保健医療福祉制度, 介護保険制度, 高齢者の権利擁護, 成年後見制度を理解している。 高齢者が生活する福祉施設について説明できる。		
4. 看護学生らしい態度で実習に取り組める。35	・積極的に実習に取り組んでいる。 ・責任感のある行動がとれる。 ・チームの一員としての行動がとれる。 ・感染防止に留意した行動がとれる。	遅刻・早退・欠課がない。 記録, 報告が適切である。 礼儀・公私をわきまえた行動がとれる。 実習グループの一員として役割を考えた行動がとれる。 ユニフォームを適切に着用し、清潔で学生らしい身だしなみである。 健康に留意し体調管理ができる。 手指衛生, マスク等感染防止対策を確実にしている。		
遅刻・早退時数		欠課時数	評価合計点数	
備考				

老年看護学実習Ⅱ評価表

1

学生氏名 _____

実習場所		実習期間		
評価内容	評価基準	評価項目	自己評価	学校評価
1. 高齢者の健康上の問題を総合的にとらえ、健康状態に応じた援助ができる。48	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集とアセスメント 対象の身体機能と健康問題および日常生活状態との関連,日常生活上の問題,障害の程度,要介護状態,対象の残存機能を把握する。 ・看護過程の展開 対象の身体機能と残存機能を考慮し、症状悪化・寝たきりの予防,QOLを高めることを目標とし、安全・安楽・自立をふまえた看護計画を立案する。 ・人生の完成期にある対象の人格を尊重した態度でのかかわり 	<p>高齢者のフィジカルアセスメントが理解できる。</p> <p>高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方を理解し実践できる。</p> <p>高齢者によく見られる身体症状を説明できる。</p> <p>高齢者に多い疾患と看護が理解できる。</p> <p>高齢者の転倒アセスメント, 食事, 排泄, 清潔, 生活リズム, コミュニケーションと看護ケアが理解できる。</p> <p>高齢者のリハビリテーションが理解できる。</p> <p>受け持ち対象者の身体機能と健康問題および日常生活との関連を説明できる。</p> <p>受け持ち対象者の身体機能を考慮した看護計画を立案できる。</p> <p>安全・安楽な看護援助ができる。</p> <p>受け持ち対象者の人格を尊重した態度で接することができる。</p> <p>適切な報告ができる。</p> <p>必要な記録ができる。</p>		
2. 様々な場における高齢者の生活と多様性を理解できる。14	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅, 病院, 施設における高齢者の生活の多様性の理解 	<p>高齢者が暮らす病院, 施設の概要・特徴が理解できる。</p> <p>多様な場で暮らす高齢者の生活を考えることができる。</p>		
3. 継続看護の必要性と保健・医療・福祉チームの一員としての役割を理解し、多職種との連携・協働を考慮することができる。24	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する保健医療・福祉サービスと対象への適応を考える。 ・高齢者を支えるさまざまな生活の場における看護を理解する。 ・他職種との連携と情報提供・情報共有を理解する。 	<p>受け持ち対象者の疾患や身体・心理的状态から要介護状態を考慮することができる。</p> <p>地域包括支援センターにおける保健師, 看護師, 社会福祉士の役割がわかる。</p> <p>高齢者をささえるための多職種連携, 情報提供, 情報共有が理解できる。</p> <p>受け持ち対象者の状態から介護サービスを考えることができる。</p>		

老年看護学実習Ⅱ評価表

評価内容	評価基準	評価項目	自己評価	学校評価
4. 看護学生らしい態度で実習に取り組める。14	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実習に取り組んでいる。 ・責任感のある行動がとれる。 ・チームの一員としての行動がとれる。 ・感染防止に留意した行動がとれる。 	<p>遅刻・早退・欠課がない。</p> <p>記録，報告が適切である。</p> <p>礼儀・公私をわきまえた行動がとれる。</p> <p>実習グループの一員として役割を考えた行動がとれる。</p> <p>ユニフォームを適切に着用し、清潔で学生らしい身だしなみである。</p> <p>健康に留意し体調管理ができる。</p> <p>手指衛生，マスク等感染防止対策を確実にしている。</p>		
遅刻・早退時数	欠課時数	評価合計点数		
備考				